

令和7年度 堺市障害者自立支援協議会

第1回 障害児の相談支援部会 議事概要

日時 令和7年7月18日(木) 15:30～17:30
場所 堺市立健康福祉プラザ 401 会議室
出席者 ◎増田(生活リハビリテーションセンター)、山本(ぴーす)、小野寺(VIVO SUPPORT ロペ/みのりの会)
音揃(堺市手をつなぐ育成会)、○里村(児童発達支援センターつばみ園)、
永吉(総合相談情報センター)、佐々木(中区障害者基幹相談支援センター)
オブザーバー 鷹野(障害福祉部)
欠席者 高田(地域生活支援センターフィットエル)、高田(相談支援室つばみ/みのりの会)
傍聴 1名 (◎部会長、○副部会長、敬称略・順不同)

1. 委員の紹介

2 障害児の相談支援部会の設置について 資料1

- ・障害児相談支援の状況
- ・障害児の相談支援部会設置までの経過
- ・これまでの議論の振り返り

3 障害児の相談支援部会の議論の方向性について 資料2

- ・障害児の相談支援部会の方向性とスケジュール
- ・令和7年度障害児の相談支援部会の協議内容

4 意見交換

<委員ご意見(要旨)>

- ・児童発達支援センターと障害者基幹相談支援センターの現状について報告
- ・障害受容のタイミングは個人差がある。障害理解が追いつかないまま、制度選択を迫られることもある。また、支援者からの伝え方も難しい
- ・今後、障害児相談支援の計画策定率が大きく減少する懸念。1人指定障害児相談支援事業所では判断が難しいケースなど限界がある。相談員が共有や相談できる場所が必要
- ・専門的な助言がもらえる機関とつながりたい。伴走型の支援が望ましい
- ・こどもの見立ても背景のアセスメントも重要であり、うまく重なる支援が望ましい
- ・医療的ケアでは病院側も地域とのつながり方を模索している
- ・親の会では情報更新や保護者同士のつながりができる
- ・支援学級は人数増でコミュニティがなくなり、保護者に情報や理解が届いていない
- ・保護者も相談員も等しく今の情報を得られる仕組みがほしい

- ・発信だけではなく、保護者側の受信について検討が必要
- ・保護者側が受け入れるタイミングで情報を届けないと届かない難しさがある
- ・既存の仕組みに再度手を入れる時期にきている
- ・つながりだけではなく、最初の段階でもっと丁寧に関わる必要がある
- ・支援機関が増えたことによりつなぎ先の最適な判断が難しくなった。おおまかでも道筋の整理が望まれる
- ・通所が困難な家庭への支援、マンパワーが厳しい部分を埋める手立てが必要
- ・各機関が発見の目は持てるようになってきたので、先の力を育てることが求められる
- ・保育所等訪問支援の事業所が増加し、ばらつきの整理が必要と思われる